

しわネット

2004
7月

ポータルサイト <http://www.town.shiwa.iwate.jp/>

No.651 発行*岩手県 紫波町



特集 「新・平次親分」 村上弘明さん来町

6 ページ
動いているね。
まちの「環境」



8 ページ 第2回
かとうじ物語

9 ページ 平成16年度
「人にやさしい街」
目指して

13 ページ 上手に! 元気に!
介護保険



持続可能な自立できるまちづくりをみんなで

まちづくり座談会を開催します

町は今、「環境と福祉の町」として町民・事業者・行政が一体となった協働のまちづくりを推進しています。座談会では、今年の重要課題として策定中の自立計画について説明します。「町の財政は苦しい……」とは言うものの、やりくりしてでもやらなければならないこと、お金をかけずにできることを皆さんで話し合いませんか。また、日ごろ感じていることや住み良いまちづくりのための提言などを、町長と話す機会でもあります。



平日夜と土曜日の開催ですので、若い人やお勤めの人でも地区割りにこだわらず、都合のよい日にぜひ参加してください。

問合せ 情報政策室

☎672-2111 内線 3231

開催日	時間	対象地区	場所
7月26日(月)	午後7時～9時	長岡	長岡公民館
7月27日(火)	午後7時～9時	赤沢	赤沢公民館
8月2日(月)	午後7時～9時	佐比内	佐比内公民館
8月3日(火)	午後7時～9時	彦部	彦部公民館
8月4日(水)	午後7時～9時	志和	JA志和支所
8月5日(木)	午後7時～9時	水分	水分公民館
8月6日(金)	午後7時～9時	赤石	赤石公民館
8月7日(土)	午前10時～正午	日詰	中央公民館
	午後2時～4時	古館	古館公民館

町長メッセージ

梅雨の季節に思うこと

寒い冬から万物の命が芽を吹き、木々が赤みをさすと、一年中で最も躍動が感じられる若葉の季節となります。日増しに緑が濃くなると梅雨に入り、湿気でうっとうしい日が続きます。今年も例年より少し早い六月七日に入梅したようです。

梅雨で明暗を分けることがあります。例年七月二十日前後に梅雨明けしますが、年により明けないまま秋になることがあります(平成十五年と平成五年)。農作物が不作の年になります。農作物が豊作か凶作かの分水嶺である本格的盛夏が到来してほしい、この秋が豊作であってほしいと願う一人であります。

一方、梅雨は大雨が降って後、明けるのでありますが、梅雨前線の動き方によっては、大雨による災害が発生する年もあります。平成十四年七月の台風6号被害はこの形態であり、被災者の皆様には苦い経験と迷惑をかけました。今、町ではそのときの経験を糧に被害が発生しにくくなるよう計画的に進めておるところであります。梅雨は早急に明け、ガラガラとした夏の暑さが来ることを願うものです。

景気は季節に応じた天候であることが最も重要だと言われております。今年こそ暑い夏を過ごし、実りの秋を迎え、年末には「今年はますますの年だった」と笑顔で年越しができることを期待いたします。

この原稿は六月末に書きましたが、皆様のお手元に届くころには七月中旬となっております。梅雨は明けているのでしょうか。災害をもたらす台風だけは避けて行ってほしいものです。

(藤原 孝)



ろく だい め
六代目

7年ぶりに復活したテレビ時代劇「銭形平次」で主役の平次を演じた村上弘明さんが、原作者野村胡堂のふるさとわが町を訪れました。番組を放送している岩手朝日テレビの協力により実現したもので、1泊の滞在でしたが、多くの人が村上さんの気さくで優しい人柄に触れることができました。

ぜに がた へい じ めい ちょう ひかえ
銭形平次 来町控

俳優・村上弘明さんの旋風が町を駆け抜けた1日



分親次平 でさふるの親みの生 日あったふれ、語り、笑い

「村上」平次親分が来町した六月十二日は、村上さんの笑顔のように気分の良い快晴となりました。気温もグングンと上がり、二五度を超える初夏の陽気。野村胡堂・あらえびす記念館では芝生の庭を会場にトークショーが開かれ、日詰商店街では町民の皆さんとのふれあいのひとときとなりました。

胡堂記念館で
七百人を前にトークショー

テレビでは六代目となる銭形平次に村上さんを起用したのは、今回トークショーにも参加してくださった東映テレビ企画制作部の加藤貢部長です。長身の村上さんならではの躍動感あふれるシーンを多く盛り込み「情熱の平次」としてのヒーローを思い描いたといいます。

松山千春さんが番組のためにつくった主題歌「一



奮興に登場分親次平村上も街商店日詰



紫波町版お静、川村明美さん（日詰）と八五郎の藤尾一夫さん（二日町）。一日お疲れ様





輪の花」も、さわやかな曲風が新しいイメージの演出に効果を発揮。そして村上さんは、情け深い平次が、作者野村胡堂の生い立ちからどのように生まれてきたのかを納得し演じてきたそうです。

これまで侍や同心役など長い刀での立ち回りが多かったので、短い十手で悪人を捕らえるのは苦労したとか。また、番組になくはならない銭を投げるシーンには、悪人相手に投げるポーズと、人助けのために投げるポーズの違いがあるという話には観客からも驚きの声。ステージで村上さんが実演すると、会場は歓声に包まれました。

陸前高田出身の村上さんは、内陸のほうに来る機会が少ないそうで、紫波の印象を「山が美しいすてきな町ですね」と語ってくれました。

トークショーの前には城山から町を一望し、夜はラ・フランス温泉にも入っていました。日詰商店街では村上さんを歓迎するイベントを企画し、三百人ほどの人が出迎えました。サインや握手を求める人に、終始笑顔でこたえる姿は、テレビ画面で見るカッコ良さに、温かさも加わり人柄がにじみ出ていました。

番組タイトル	放送期間	主演	お静役
銭形平次捕物控	1958/ 7 ~ 60/ 6	若山富三郎	田代百合子
銭形平次捕物控	1962/ 4 ~ 63/ 6	安井 昌二	朝丘 雪路
銭形平次	1966/ 5 ~ 84/ 4	大川 橋蔵	八千草薫 / 鈴木紀子 / 香山美子
銭形平次	1987/ 1 ~ 87/12	風間 杜夫	宮崎 淑子
銭形平次	1991/ 5 ~ 97/ 9	北大路欣也	真野あずさ

テレビ放送された歴代銭形平次シリーズ



習町車置処で村上さんの到着を
今か今かと待つ人たち



岩手朝日テレビの新人アナウンサー
樋口綾子さんも町の人気者に



銭形音頭の披露。いつにも増して
踊り手の皆さんも気合いが入ります

「紫波まちピカ応援団」 初の認定！

町では、六月十一日、「星やま・まちピカ応援ネットワーク」を紫波まちピカ応援プログラムによる「紫波まちピカ応援団」第一号として認定しました。藤原町長は代表の工藤幸雄さんと協定書を取り交わし、認定書を手渡しました。

紫波まちピカ応援プログラムは二月にスタートした、アダプト・プログラムの制度で、県内自治体では初の導入となっています。

初の認定団体となった、「星やま・まちピカ応援ネットワーク」は、星山・犬吠森地区の青年団体や星山小学校PTA役員八十五人で構成する団体で、以前から、地域の町道・公園などの公共施設の清掃や除草を行っています。

交付にあたり、

藤原町長が「皆

さんが、地域に愛着をもって美化活動を行われていることに感謝しています。これからも、地域自治の先頭に立って頑張りたい」とあいさつし、工藤さんが、自分たちが住む地域を自分たちの手で、美しく住みよい環境に保つため、まちピカ応援プログラムを通じて活動していきたい」と決意を述べました。

町では、同様の活動を行っている、またはこれから行う計画のある団体からの認定申込をお待ちしています。

申込・問合せ

内線5521

有線01-8972

環境課循環政策室 ☎ 672-2111



動いているね。
まちの「環境」



「写そうぼくらの『まち』を」 デジタルカメラ環境探検隊！

紫波みらい研究所主催の本年最初の環境探検隊が開催されました。

八回目となる環境探検隊は、五月二十九日にキヤノン株式会社との共催で、小学三年生から六年生を対象に「写そうぼくらの『まち』を」デジタルカメラ環境探検隊として実施されました。

この企画は、町が昨年、循環・共生・参加まちづくり「環境大臣表彰を受賞したことに注目したキヤノン株式会社から、記念事業、子ども体験学習支援プロジェクト」として提案されたものです。子どもたちに紫波の自然をカメラを通して再発見してもらい、環境保全意識を高めることを目的としています。

当日は雨模様の天気でしたが、午前の部三十七人、午後の部三十人、計六十七人が参加しました。

会場は、午前の部がラ・フランス温泉館裏山の東根山登山道、午後が水分神社、ビューガーデン周辺で、子どもたちは思い思いに山の中に分け入り、足元に咲く小さな花や茂みに隠れた昆虫、霧の中にそびえる杉の太木などを撮影し、雨に濡れるのも気にせず自然の中で時間を過ごしました。参加した子どもたちから、「葉っぱについた滴がキラキラしてきれいだった」、「雨の滴がレンズ代わりになって細かいところまでよく見えた」など、雨が降ったからこそその自然の美しさに感動したという声があがりました。



写真指導に、写真家の永武ひかるさん（東京都）をお招きし、撮影後、一人ひとりの写真講評が行われ、プロジェクトで大きく映し出された写真に参加者からは歓声と、ときには笑い声も飛び交っていました。

紫波みらい研究所では、今後、子どもたちの自然の素晴らしさを子どもたちに伝え、自ら気づいてもらう活動に取り組む環境学習プログラムを展開することになっています。

問合せ

NPO法人紫波みらい研究所
☎ 6766103



用・語・解・説

アダプトプログラム

アダプト(ADOPT)は「養子縁組をする」という意味で、町民、事業者の皆さんが、公共施設(公園や道路など)の里親になり、除草や清掃などの美化活動を行っていくものです。町は、活動保険の加入、回収したごみの収集、清掃用具の提供・貸与などを行うことで、その活動を応援します。

「エコ・ショップしわ」

認定制度

環境に優しい取り組みを積極的に行っている町内の小売店舗を認定し、応援するもので、2月に創設。町民と事業者と町の連携のもと、循環型社会構築に向け、環境に優しい生活様式を確立することを狙いとしています。町内の女性八団体と赤石生活学校から選出された九人で構成される「紫波町ごみ減量女性会議」が認定します。

環境に優しいお店応援します 「エコ・ショップしわ」 新たに3店舗を認定！

六月十一日、Aコープ・ライフサービスいわて志和店、Aコープ・ライフサービスいわて東部店、ロッキー紫波店の三店が新たに「エコ・ショップしわ」として認定されました。今回の店を加え「エコ・ショップしわ」認定店は、五店舗となりました。

紫波町ごみ減量女性会議が審査し、包装の簡素化、ばら売りによるトレーの削減、マイバッグ利用によるレジ袋の削減などのごみ減量化への取り組み、省エネルギーの取り組み、リサイクルによる資源の有効利用などが認められました。

Aコープ志和店の古館正志店長、同東部店の立花又蔵店長、ロッキー紫波店の豊川彰店長が「今後も環境配慮を積極的に進め、取り組み項目を増やしていきたい」と決意を述べました。

町では、今後も環境にやさしい取り組みを行っている店舗を応援していきます。

問合せ

環境課循環政策室
☎ 6722111

内線 5521

有線 01-8972

■認定ステッカー このステッカーが、環境にやさしい取り組みを行っている「エコ・ショップしわ」認定店の目印です。



ロッキー紫波店のリサイクルの取り組み(右)ノ認定証を藤原町長から交付左)



「エコ・ショップしわ」認定店	
盛岡南ショッピングセンター ナックス	
マックスバリュ紫波店	
Aコープ・ライフサービスいわて志和店	
Aコープ・ライフサービスいわて東部店	
ロッキー紫波店	



宮澤賢治の友人 かとうじ物語

連載 第2回 どっこ舎 内城弘隆 作

町の先人藤原嘉藤治の顕彰が自発的な町民運動として始まっています。宮澤賢治とのかかわりも深い嘉藤治の生い立ちから業績を、連載「かとうじ物語」として日詰の内城弘隆さんに寄稿していただきます。

音楽教師への道

藤原嘉藤治は明治四十四年四月、岩手県師範学校二種講習科に入学しました。師範学校は明治

九年、県庁の真向かいに、近代教育の担い手を育てるために創設されました。題字背景写真。しかし、明治末期のころも県内の教育の実情は低く、正規の教員も足りない状態でした。

嘉藤治はそんな期待に応えようと、授業には真剣に臨み、読書もしました。寮ではそまつな食事に絶えながらも、寮友と政治や教育、あるいは人生や文学について、熱心に語り合いました。

明治四十五年、嘉藤治は念願の本科に編入し、音楽部にも入って三浦波治先生から声楽やオルガン演奏の指導を受けました。また、英語を習うために近くの盛岡幼稚園の外国人タツピング園長のもとに通い、その縁で、タツピング夫人から学校にはないピアノを借りて練習することができました。彼は授業が始まる前、早朝から猛烈な勢いで練習に打ち込み演奏の力をつけていきました。

時代は明治から大正へと変わり、その秋も深まったある日、兄広治の訃報が届きました。広治はこの三年の間に不動小学校、日詰小学校、水分小学校と歴任し、短い勤務の中にも、それぞれの校歌を創るなど、その才能を発揮して、地

域から慕われていました。嘉藤治にとって広治は実の兄であり、理想の教師でもあったのですが、突然心の支えを失って、悲嘆にくれるばかりでした。

青春の悩みと希望はいつしか嘉藤治の胸に詩の心を宿らせていきます。彼は、盛岡地方の文芸誌「朔風」や校友会誌に草郎の名で詩を投稿するようになりました。燃ゆる思いの作品は、新聞などにも取り上げられ、いつしか詩人草郎の名は巷に広がっていきました。

一方、このころ梅村保や原彬（原敬の甥）などによる盛岡弦楽研究会が結成されるなど、声楽が中心だった音楽界に弦楽合奏という新たな風が吹き始めます。

その中であつて師範学校音楽部の演奏会は県都の秋を飾る恒例の行事でした。嘉藤治にとって最後となる演奏会は大正天皇即位の礼の祝賀ムードの中、師範校、盛岡高等女学校（現二高）の生徒や一般の聴衆千人ほどを集め盛大に行われました。その模様を伝える岩手民報の大正四年十一月九日号は「四年藤原嘉藤治氏の真摯な演奏は尊敬に値す」と評しています。

嘉藤治は卒業に当たり、音楽部長としての表彰を受けています。

紫波フオト 歳時記

ポータルサイト版

とっておきの1枚をポータルサイトに

町のホームページ“ポータル紫波”には、写真を投稿できる欄「投稿アルバム」があります。あなたの力作を発信してください。投稿方法などはITサポートセンター ☎676-6558 でも教えてください。

問合せ 情報政策室 ☎672-2111 内線3232

夕焼け空

撮影 武田ヤエ子（小屋敷）
雲はわたしの気持ちを穏やかにし、希望を与えてくれる。明日もまた、美しい空でありますようにと願いをかける。自然はあまりにも目映い。



「人にやさしい街」目指して

日詰商店会主体のまちづくり進行中



日詰商店会は、平成 15 年度国土交通省くらしのみち構想に応募し、全国 42 カ所の一つとして登録されました。この取り組みが、行政主導ではない任意団体の登録として注目をされています。

沈滞している商店街活性化の方策を探りつつ、人にやさしくくらしのみちの理念のもと、不便な商店街の街路状況の改善整備を図り、併せて、高齢化社会に対応した地域づくりの中核的役割を果たすべく各種事業に取り組んでいます。

「くらしのみち」にかける夢

日詰商店会会長

野村 晋



日詰商店街は、時代の変遷に応じて自然に集積し、盛衰を重ねてきた歴史街道である。雑多な魅力で吸引力を誇った時代もあったが、昨今のように、時流を読み、計算された大手資本の魅力作りの前に、自然集積型は歯が立たない。

でも、商店街活性化の道は探りたい。殿様商売との厳しい指摘を受けつつ協議し、人・車混在の、安全無視の街路状況を改善し、自分たちが住みたい街になろう、商人の原点に立ち返ろうと、手作りの「商店街再生計画」を立てたのが、一昨年。その先の見通しが立たずに困惑していた矢先、天恵のように国土交通省から提案されたのが、再生計画に相通ずる「くらしのみち構想」である。

今回の申請は、従来なら役所の管轄である「道路計画」を民間が主体となって提案するという常識外れのものだ。しかし「日詰再生には、これしかない」とけしかけたのが街作りプランナーのS氏。結果を見ると登録のほとんどが自治体で、民間申請はわずか四十二分の二。県や町などの行政に協力をいただいたものの、国も評価している申請方法だった。

安全対策を商店街活性化の基点にする苦肉の策。補償金無し、の街路整備構想は、無駄金掛けない商人道の第一歩か。登録以来続く協議、勉強の日々も、「商店も住民も賛同し、なおユニークな中味」という会員の願いがあつてのこと。でも、満場一致が失敗例に、反対の多い個性的な案が成功例に、は世の常。ユニークさが命か、コンセンサスが第一か、相反するテーマを乗り越えようと、くらしのみちにかけた夢を追って、今日も会員の奮闘が続いている。各位の理解と支援を賜りたい。

解説 くらしのみち ゾーン構想

今回登録された「日詰商店会くらしのみちゾーン構想」は、平成十二年度から取り組んできた商店街活性化対策事業、十四年度の日詰商店街活性化構想「ひまわり太陽計画」をもとにして作成しています。その主な内容を紹介いたします。

「くらしのみちゾーン」の申請内容

①安全に関する内容

地域住民が安心して歩けない、ゆっくり買い物ができない道路環境を、安全で快適、美しい「くらしのみちづくり」としての道路整備の実現と、商店街の活性化を図る。

道路寸法 九・〇メートルの中で整備を行う
車歩道の明瞭な区分による安全の確保

通行車両の制限
電線・電信線などの地下埋設
側溝の一新による歩行者の安全確保
新たな駐車場の確保



電線類を地中化した
「ソフ地中化（イメージ例）」

②環境に関する内容

街路に木を植え、花を飾り、側溝や街路灯を一新、潤いがあり歴史や情緒を感じさせる商店街にし、蝶や鳥も集まる空間、住民にやさしく住みよい環境の地域づくり。

歩道に木を植える場所を設ける
商店街に面した商店などの前は花で装飾

側溝の一新による洪水被害防止
街路灯は和風なイメージに一新
高齢者などの安全な歩行のために、車歩道の間に段差を設けない



整備された側溝、植栽
（イメージ例）



「くらしのみちゾーン」とは

国土交通省の施策であり、身近な暮らしの快適性の向上を目指し、生活道路は車より歩行者・自転車優先し、あわせて無電柱化や緑化などを行い、地域の人と協働して道路を身近な生活空間として質の高いものにする取り組み。
こうした施策への意欲の高い地区が公募され、平成十五年七月に日詰商店会が登録されました。

おおむね、五年後の実現を目指して進めることが可能であるという条件があります。

国土交通省に申請した「くらしのみちゾーン」申請内容は主に下の二つです。



これからの展開

平成十五年度、町では、中心市街地における市街地の整備改善および商業などの活性化の一体的推進を図るため、紫波町中心市街地活性化基本計画を策定しました。市街地の整備改善の一つが「くらしのみちゾーン」の推進であり、商業の活性化の柱としては「TMO構想」の策定と事業展開です。商店街の活性化については、ハード整備事業とソフト事業の両輪が必要です。

日詰商店会では、登録後「くらしのみち対策室」を設け、総務・企画・整備の3つの委員会を組織し取り組んでいます。整備委員会では、商店街の道路整備と景観に関する事業を、企画委員会では商店街や個店の活性化対策における役割を担っています。

町では、有識者、行政区長、関係機関、商工会、商店会からなる紫波町日詰くらしのみち推進協議会を組織しました。また、盛岡地方振興局では、平成十六年度に「くらしのみちゾーン」の事業化に向け、商店街を縦貫する県道紫波川井線（通称「あきない通り」）の基本調査を行うことになっており、商

店街にふさわしい道のあり方について対策室を支援します。

今年も実施します「社会実験」

昨年十二月、日詰商店会は総務省「都市再生モデル調査事業」を活用し商店街の蛇行車路・一方通行化について実証実験を実施しました。アンケート調査では、「人にやさしい道路」という考え方について大方の賛成が得られたものの、歩車道のあり方について検証が必要ということでした。

このことから、今年度も国土交通省「社会実験」に申請し、再度実証実験をすることが採択されました。実施は、九月上旬を予定しています。



「TMO構想」とは、中心市街地を活性化し、将来像の実現を図っていくためには、街路や施設のようなまちなちの基盤整備と、そこにふさわしい事業が必要です。こうした活動を、一体的かつ継続的に取り組むために「管理・運営」や「調整」などを行うことを「TMO」と言います。

問合せ

商工観光室

☎ 672-6872

日詰商店会（紫波町商工会内）

☎ 672-2244

日詰「くらしのみちゾーン」住民懇談会を開催します

日詰商店会は、「くらしのみちゾーン」について、広く町民の皆さんにご理解いただき、商店街を利用する人、地域住民から意見をうかがう場として、住民懇談会を開催します。

日時 七月二十四日（土）、午後六時三十分～八時三十分
場所 紫波町商工会館三階

行ってみたいと思う魅力をみんなで作りたい

日詰商店街で電気店を営む
鈴木千佳子さん

客観的に見ると、大型店はそれなりの魅力をもっていて人気があるのもうなづけます。

わたしたちの商店街にも個性やイメージが言葉だけでなく、形として目に見えるものがほしいと思っていました。その起爆剤となるのがこの「くらしのみちゾーン構想」になるのではと期待しています。

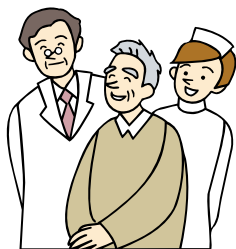
大型店でも同じですが、またそこに来たいと思うかどうかは、経営する人たちの腕にかかってきます。商店街の場合は家族経営が多いこともあり、そこに住む人たちがいかに団結できるかということも重要だろうと思います。その点、今回の構想ではこれまで家を守る一方だった女性たちの意見を取り入れてくれるので、きめの細かいサービスが提供できるようになるでしょうね。

また、この計画を進めることで、世代や、考え方も違う商店街の人たちが、一つの目標に向かう共同体としてのつながりができることも大きな成果だと思っています。



お気軽にご相談ください 地域リハビリテーション 広域支援センター

「地域リハビリテーション広域支援センター」として南昌病院が平成十五年に指定されています。
ここでは、リハビリテーションに関するさまざまな相談を専門スタッフが受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。



県では、高齢者や障害者が住み慣れた地域で、機能回復・維持のためのリハビリテーションを行い、要介護状態になることを予防するための体制整備づくりを進めています。

盛岡南部地域(紫波町・盛岡市・矢巾町)では、この中心的な役割を担う

地域リハビリテーションとは
障害のある人々や高齢者とその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともにいきいきと活動・生活ができるよう、医療や保健、福祉、介護など、生活に関わるあらゆる人々や機関・施設・組織がリハビリテーションの立場から協力し合う活動です。
盛岡南部地域の南昌病院のほか、県内で十施設が広域支援センターとして指定され活動しています。

主な相談内容は
● 世話している人の介護やリハビリテーションに関すること
● 住宅改修や福祉用具(つえ、補助具、自助具など)に関すること
● コミュニケーションの障害に関すること
● そのほか介護やリハビリテーションに関して困っていること

受付・問合せ
広域支援センター相談窓口
南昌病院
☎ 697-5211
内線 316
矢巾町広宮沢 1-2-181

町の図書紹介

わたしのあかちゃん

澤口たまみ 作
津田 真帆 絵 福音館書店



きのうまでおなかのなかにいたあなたときょうはならんでねむります。

自分のスタイルで自然なお産を経験し、子どもの生命力を感じ、母としてのスイッチが入ったという作者から、おかあさんたちへのメッセージともいえるべき絵本。作者はエッセイスト、昆虫研究家、そして町の教育委員でもある澤口たまみさんです。

子育て支援サークルにこにこひろばのおかあさんたちに、絵本のきょうかけとなったお産の経験を話す澤口さん(六月十七日水分公民館)



そんなに古くない日詰の昔話

かじやの権三

畠山真子 作
橋本和子 絵 どうこ舎刊



困難に立ち向かう勇氣をもってほしい！あつさる馬に権三がしたことは…

日詰の習町に生まれ育った作者が、愛するふるさとを舞台にして、失敗や苦難を乗り越え成長していく主人公や登場人物を、大切な知人とかぶらせながら書き上げた童話。

中央公民館図書室に小さなお子さんも絵本が選びやすいコーナーができました





上手に! 元気に! 介護保険

～体験談紹介～

担当 介護保険室 ☎672-4522

今回は、寝たきり状態から、車いすで移動できるようになった古館の谷村直人さん（九十四歳）を紹介します。

谷村さんは平成十一年に脳卒中で入院し、寝たきり状態になりました。ご家族は施設に預けるより自宅で介護しようと、始まったばかりの介護保険を利用して週三回の訪問看護を受けました。四年あまり寝たきりでしたが、今では、居宅介護住宅改修費を活用してバリアフリーに改修した自宅内を車いすで自由に移動できるようになりました。

個人のプライドを大切に

入院中は精神的に非常に不安定で問題行動もあり、自宅に帰ってきてからもしばらくは大変だったそうです。生活パターンを直人さん中心の規則的なものに変え、息子さん夫婦と訪問看護師一体となって介護を行い、会話ができるまで回復しました。息子の誠一さんは、家に帰ってきて安心したこと、父のプライドを傷つけないようにした、そのことがストレスを減らし、回復につながったのでしよう。介護は、大変だ、大変だと言われるけど、これが当たり前だと思えば、そんなに大変ではなくなる」と話していました。

耳が少し遠い直人さんですが、近所の人たちともにこやかに談笑し、大好きな野球と相撲をテレビ観戦しています。自分一人で歩けるようになるために、今日もリハビリに励んでいます。

現在使用している介護サービスは、福祉用具貸与（エアマット）と訪問看護です。

ケアマネジャーから

しわ訪問看護ステーション虹

指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員 阿部愛子さん

直人さんは、入院時（脳卒中）は痴ほう状態がひどく、これ以上改善の見込みがないと言われ、全介助の状態で退院されました。週三回の訪問看護でそれも改善され、現在はテレビニュースを見て家族に教えるほどになり、状態も安定しています。お花見と、年二回位の施設への短期入所サービスを大変楽しみにしています。

お世話する人もされる人もあきらめないでやる気一番と教えられた気がします。

【介護保険ワンポイント】

居宅介護住宅改修費とは…

自宅で転倒予防のため、手すりの取り付け・段差の解消をしたり、扉や便器を取り替えたりする小規模な住宅改修に対してその費用が支給されます。改修費の支給限度基準額は同一住宅で二十万円です。



2004
まちの
わだい



平成十四年の台風六号大雨による水害を教訓に、防災関係機関と古館地区の住民約四百人による防災訓練が行われました。

「若手県内陸部に大雨、暴風雨、洪水警報が発令され住宅浸水、屋根の破損、電気・電話施設が破損した」という想定で、災害対策本部が設置され、避難所の開設、住民の自主避難や避難誘導が開始されました。

避難場所と訓練会場となった古館小学校では119番の電話



のかけ方や消火器による初期消火訓練、けが人ができたときの対処法などさまざまな訓練が住民を対象に指導されました。また、防災ヘリコプターが小学校の屋根から取り残された人を収容する訓練は、皆、固唾を呑んで見守っていました。災害はいつ自分の身にふりかかるかわかりません。皆さんも非常時に備え防災用品や避難路などについて家族で話し合っておきましょう。

大雨災害を想定した住民参加型の防災訓練

6/27



野村胡堂・あらえびす記念館
開館十周年を記念した野村記
念講座では、NHK大河ドラ
マ「毛利元就」の原作者永井路
子さんを招いて講演会を開催
しました。永井さんと一緒に
訪れた夫の黒板伸夫さんは戦
前から胡堂と交流があり、胡
堂のエッセイにもK青年とし
て紹介されています。伸夫さ
んとの出会いもあらえびすの
レコードが縁となったとか。
また永井さんの実母智子さん
のことが書かれた手紙を初め
て記念館で目にして大変感激
していらつしゃいました。

木賞をとれるといいんだがね」と言われたそうですが、昭和
三十九年に「炎環」で第五十二
回直木賞を受賞したときには
すでに胡堂は亡くなっていま
した。
コンサートの際は野村学
芸財団元奨学生の音楽家、峰
貞子さんが、今春東京芸術大
学を退官され、退官記念とし
て思い出のうたの数々を披露
素敵な歌声と、フルート、クラ
リネット、ピアノの調べに、集
まった二百六十人が魅了され
ていました。
峰さんと永井さんは親交が
深く、今回の講演会も峰さん
のご協力で実現したものです。



明るい参議院議員通常選挙標語コンクールで二人
が入選しています。

小学校の部最優秀賞

上平沢小学校5年 照井亜未さん（写真）

「その一票 未来を変える カギとなる」

佳作

上平沢小学校5年 田口祐太くん

「いい日本 実現させる その一票」

直木賞作家永井路子さん 6/13 迎え野村記念講座

初夏の日差しを浴び 6/6 きびきびと消防演習



恒例の消防演習が行
われ、消防団員による
消防操法、婦人消防協
力隊による応急処置訓
練など、日ごろの訓練
の成果が披露されまし
た。今年は紫波総合高
校の生徒がボランティア
アとして十三人参加し、
表彰の補助や来賓の案
内をはじめいたるところ
で活躍してくれました。
見学者が楽しみに
している放水訓練は、北上川の河岸整備で
昨年と勝手が違う部分もありましたが、鮮
やかな色つきの放水で堤防を覆い隠した水
のカーテンは壮観で見事でした。





町では、公共下水道、集落排水、合併浄化層などの排水施設整備で豊かな水環境を目指しています。公共下水道に着手したのは県内でも早く、今年で十八年目になります。

さらに水環境への関心を深めてもらおうと、下水道女性セミナーが開催され、第一回目の講演会には四十人ほどが参加しました。はじめに県立久慈東高校三年小谷地利恵さんが県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会で最優秀賞をとったプロジェクト「我が家でできることは何?」生活排水の浄



発表者の小谷地さん(右)と、息の合ったパソコン操作で発表を助けたお二人

化を科学して」を一台のスクリーンに分かりやすい映像を映し出し、高校生らしい元気な発表をしてくれました。市販の食器用洗剤も進歩し、適量を守ることで汚染の度合いが激減するのに適量を確認して使っている人がほとんどいないことなど、普段の生活を見直すきっかけとなる内容でした。後半は岩手大学工学部海野輝之教授による排水浄化のしくみについての講演が行われました。

このセミナーは八月に宮古清掃センター、九月には町の浄化センターの施設見学を予定しています。

豊かな水環境を目指して 下水道女性セミナー

6/25

清らかなふるさとの 川を守る施設の竣工

6/12



片寄地区農業集落排水処理施設「瀧水の里」が三月に完工し、平成十四年の一部共用開始以来、多くの世帯に利用されています。この施設は、連続流入間欠ばつ気方式で、一日約二六二立方メートルの生活系排水の処理ができます。地域の強い要望で整備されたこの施設は、農業用水路の水質保全、農業生産性の向上ほか快適な農村環境を促進し、未来へ美しい紫波の自然を引き継ぐための効果が期待されています。



連続流入間欠ばつ気方式とは、汚水を連続的にばつ気槽へ流入させ、微生物の微細な活性汚泥と共に、ばつ気とかくはんを繰り返す処理方法。処理された汚水は、沈殿槽で固液分離され上澄水は減菌して放流。沈殿した活性汚泥はばつ気槽に返され、再び処理に利用されます。

東根山の山開き行事として、登山好きの子どもからお年寄りまで百二十人ほどが新緑の山に挑みました。この日は絶好の天気となり、ラ・フランス温泉館後ろの登山口から五班編成で午前九時に出発。鳥やセミの声を聞き、道端に咲いている野草の可憐な花に心を和ませながら山頂を目指しました。途中で、登山者のために朝早くから、登山道の刈り払いをしてくれた地元青年会の人たちとあいさつを交わし、また、水のみ場でのどを潤し、蛇石展望台から眼下に広がる町を眺め、正午近くには全員無事到着。盛岡市や滝沢村など町外からの参加者とも共にパンザイで喜びをわかちあいました。下山途中にはヘビと遭遇するというハプニングも思い出の一つにして、最後はラ・フランス温泉の湯で疲れをいやしていました。



結核対策を担う保健医療に従事する十八カ国二十一人が、日本の結核対策を視察するため町を訪れました。

結核は栄養状態が悪く、保健衛生体制が整備されていない途上国を中心にまん延しています。アジア、アフリカをはじめとする各国の保健省や医療機関の職員で構成された結核対策中間レベル結核管理研修員の皆さんは、古館地区の総合検診会場で一連の検診の様子を視察し、通訳をおしてさまざまな質問をしたり、検診車を見学したりしていました。

保健センターで保健行政の説明を受けた際は、フィリピンからの研修生が、結

核対策のための町の予算が一千万円ほどと聞いて驚いていました。パキスタンの研修生は妊婦健診や乳児健診、就学前までの子どもの医療費助成事業が充実されても、少子化が改善されないことを理解することができないようでした。その後、次の視察現場である予防医学協会へ移動していきました。

日本ではBCG接種などにより、新たに結核に感染する人は減少傾向にありますが、それでもまだ、年間二千四百人以上が命を落としています。保健活動の充実とその施策が重要であることを再認識させる訪問でした。

結核対策のお国事情



高金寺（彦部）の住職大松禮一さんが、昭和二十八年から昭和六十年までの長きにわたり民生・児童委員として住民の保護、自立更生援護活動に尽力したとして叙勲の栄を受けました。

就任当時は、戦後の社会的混乱の中、福祉サービスには問題が山積していましたが、低所得者世帯を中心に訪問活動を実施し、経済的自立や児童の就学の指導援助に努めました。また、昭和四十三年からは紫波町民生児童委員協議会総務として組織強化と事業運営に尽力してきました。これらの功績によりこれまで県知事表彰、厚生大臣表彰も受けています。

33年間の民生委員活動に瑞寶単光章

自宅や事務所から
インターネットなどで
申告・納税ができます

「e-Tax」がスタートしました

公的個人認証サービスを活用して、6月1日から国税の電子申告・納税などが開始されました。ここでは主に個人が利用する場合の方法を説明します。法人も利用できますので、詳しくは国税庁(e-Tax)のホームページなどをご参照ください。

●利用できる手続きの主なもの

所得税、法人税および消費税に係る申告

国税全てにおける納税

青色申告の承認申請、納税地の異動届出、電子納税証明書の交付請求

●利用に当たっては、次の手続きが必要となります。

公的認証サービスの手続き

公的認証サービスとは、インターネット上での申請・届出に対して、送信者が間違いなく本人であることを公的な機関が認証し、電子証明書を交付するサービスです。

役場町民課で住民基本台帳カードを作成し、併せて公的個人認証サービスの申請手続きを行ってください。

公的認証サービスについての問合せは

町民課 ☎672-6862

所轄税務署に開始届出書を提出

次のいずれかを添付(または提示)願います。

住民票の写し、戸籍の附票、印鑑登録証明書、健康保険証、国民年金手帳、運転免許証等の官公庁から発行された身分証明書で住所・氏名を確認できるもの

開始届出書の提出後に、管轄税務署から利用者識別番号(ID)、暗証番号、CD-ROM(e-Taxソフト)が届出者に送付されます。

実際の運用に当たっては、国税庁ヘルプデスク ☎0570-015901(市内の通話料金でご利用できます)にお問い合わせ願います。

またはe-Tax ホームページ

<http://www.e-tax.nta.go.jp> をご覧ください

インターネットバンキングを利用する場合

国税の納税や納税証明書の申請をインターネット上で行う場合は、インターネットバンキングにより納税や証明手数料を納付することになります。

利用手続きに関しては、基盤整備が行われている金融機関システムの利用となるので、利用が可能かどうかについては、取引先の金融機関に問い合わせして頂き、利用が可能な場合は、その金融機関の指示に従って手続きを進めてください。

勤労青少年ホーム 短期講座受講生募集

各講座とも、定員になり次第締め切ります。お早めに申し込みください。青少年ホームへの登録をしていない人は、登録後受講申し込みとなります。(登録料1000円)

●場所 青少年ホーム ●時間 午後7時～9時

●申込・問合せ 勤労青少年ホーム ☎676-2344

有線 01-3134

講座名	日程
浴衣着付講座 定員 15 人	7月22日(木)・29日(木) 全2回
卓球講座 定員 10 人	8月2日～9月13日 毎週月曜 全6回
華道体験講座 定員各回 10 人	8月9日(月)お盆のお花 8月23日(月)アレンジメント 9月6日(月)お祭りのお花 材料費は個人負担
トータルフィットネス体験 (基礎体力づくり) 定員 20 人	8月20日(金)・27日(金) 全2回



6年に1度の大会が町で開催されます 自転車競技の祭典

平成16年度国民体育大会東北ブロック大会兼第31回東北総合体育大会

8月27日(金)～29日(日) 紫波自転車競技場・東部特設ロードコース

町出身の選手や県内外の有力選手の健脚を見るチャンスです。詳しくはしわネットお知らせ版8月号でご紹介します。

油の流出事故が多 発しています

最近、一般家庭や事業所のホームタンクから灯油などが漏れ出して河川、用水路に流出する事故が多発しています。その多くは、給油や移し替えの途中に目を離す不注意や、パイプの破損といった点検管理の未実施が原因となっています。

河川は飲料水や農業用水などに利用されるほか、さまざまな生き物が生息します。油の流出はこれらの環境を汚染し、処理には多くの経費を要します。

処理にかかる経費は原因者の負担となりますので、パイプの点検をこまめに行うなど、普段から十分に注意してください。また、もしものためのために、ホームタンクへの防油堤の設置や、転倒防止のための足の固定をお勧めします。

● 問合せ 環境課生活環境室
☎672-2111 内線 5531



募集! 町の安全守る ヤングボランティア

紫波地区地域安全推進協議会で、紫波町・矢巾町・盛岡市都南地区で、犯罪や交通事故防止、少年の非行防止活動を行う地域安全ヤングボランティアを募集します。

● 応募資格 地域の安全や少年の非行防止に関心のある紫波町・矢巾町・盛岡市都南地区に住む中学生・高校生・大学生・社会人などの青少年。(おおむね13～19歳)

● 活動内容

- ① 巡回パトロール
- ② 街頭キャンペーン
- ③ 防犯・交通安全に関する活動
- ④ 地域安全ボランティアとの連携活動
- ⑤ 広報チラシなどの作成、配布
- ⑥ その他必要な活動

● 結成時期 10月1日(金)を予定
● 活動日 平日の午後、土・日曜
(ボランティアの話し合いで決定)

● 問合せ・応募先 地域安全推進協議会事務局(紫波警察署生活安全課内) ☎671-0110または役場総務課消防安全室 ☎672-2111・FAX 672-2311

第2回クリーン紫波 でまちをきれいに

平成16年度第2回クリーン紫波運動を実施します。道路や水路、公園などの空き缶、空きビン、タバコの吸い殻などを拾い集め、道路の草刈りをし、ごみのないきれいな町にしてお盆を迎えましょう。

● 日時 8月1日(日) 午前6時～7時

行政区長、衛生区長の指示に従って実施しましょう。

交通安全に十分注意してください。

回収したごみは、きちんと分別して集積所に搬入してください。

会社などの事業所についても地区の清掃活動にご協力くださるようお願いいたします。

● 問合せ 紫波衛生組合連合会・環境課 ☎672-2111 内線 5531

さらにパワーアップの予感!! 第33回紫波夏まつり

自分たちを表現するステージ、神輿の登場など新たなシーンをつくりだした前回のまつりに続き、今年は高校生スタッフも加わり、若さもプラス。さらに内容を充実したまつりを開催します。

「今年も何かが違うぞ! 紫波夏まつり」にご期待ください。

● 日時 8月8日(日) 午後開催。詳しくはお知らせ版に掲載

雨天の場合は、8月15日(日)に順延。

● 会場 紫波総合運動公園

● 内容

みこし(祭典会)
自分たちを表現するステージ 夏まつりのヒーローたち vol.2
踊り大会
太鼓と花火の競演

まつり募金のお願い

町内のスーパー・コンビニ・飲食店のご協力により、46カ所にまつり運営のための募金箱を設置しています。募金箱を見かけましたら、ご協力をお願いします。

問合せ

夏まつり実行委員会事務局

(商工観光室内) ☎672-2111 内線 3243

夏の夜空に記念花火を 打ち上げませんか!

花火大会での打ち上げの際にお名前と記念内容をご紹介します。5,000円から申し込みを受け付けます。

銭形音頭・紫波町音頭 練習会のお知らせ

● 練習日 7月27日(火)・

8月3日(火)

● 時間 午後7時～8時40分

● 場所 総合体育館



アルバムにはられたあの日の紫波町
スローな昔の生活をのぞき、
心をいやしてください。



まとい
はしご
纏 振り・梯子のり
昭和三十年代の消防演習

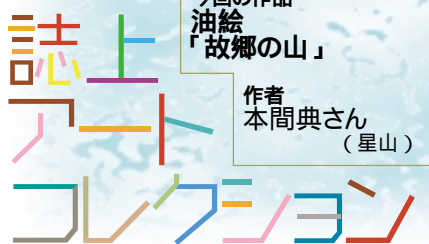
纏振りとは、各分団自慢の纏を使い、豆絞りできりりとねじり鉢巻をした団員の手によって、江戸八百八町を守るいるは四十七組の火消しを粹にまねたものです。

梯子のりは、稲藤地区の分団によるもので、「鷺の谷渡り」「かんたん夢の枕」などの決死の妙技を披露していました。

日詰小学校の校庭で消防演習が行われていたころの特別演技です。

シリーズ
『あの日』の思い出に会いに

中央公民館で油絵の指導をしている本間さんは、岩手大学在学中に本格的に絵の勉強を始め、社会人になってからも岩大特美科で聴講生としてデッサンを学びました。現代美術協会に所属し、上野美術館中央展に出品入選しています。ここ数年は、県民会館やマリオスなどで個展も開いています。写真は油絵愛好会の皆さんと（前中央）



今回の作品
油絵
「故郷の山」

作者
本間典さん
(星山)



油絵教室 木曜
デッサン教室 月曜
中央公民館 ☎672-3362
赤石公民館 ☎676-3999